

No.	10-2-9	場所	駒ヶ根市 新宮川岸	次世代への継承キーワード
名称	①濁流渦巻く新宮川岸付近 ②軒まで土砂に埋まった新宮川岸の家々			災害現象理解 / 避難行動
災害現象	洪水氾濫			河川 新宮川
補足事項				支流

上流でがけ崩れが約390ヶ所で発生し、土砂が新宮川に一気に流れ込んだ。竜東（伊那山地）では駒ヶ根市中沢新宮川、百々目木川流域一帯で、死者・行方不明5名、被災人員558名に及び人的被害と家屋や発電所の倒壊、橋の流失等の建物にも被害が生じた。

百々目木、大洞地区などでは、土石流によって60戸以上が流出全壊、農地のほとんどが失われた。

●体験談：災害時、新宮川岸付近に在住の高校1年生

<6月28日の朝>新宮川岸に行くとも一面の泥海、橋は流され家々は半分以上泥水に浸かり、新宮川は恐ろしいほどの水嵩で波打っていました。一夜にしての変わりように災害の恐ろしさをしみじみ感じました。高校は暫らく休みでした。一週間ぶりの通学、赤穂から見た**中沢の山々は緑が無いのではないかと思われるほど、つめで引っかいた様な、なぎ崩れの跡に驚いたもの**でした。三六災害は上割新宮川を境に南が大変に荒れ、中山、大曾倉は災害がほとんど無く不思議な現象でした。

（中沢公民館文集「溪聲」36災害特集号p.5）

●体験談：△△

新宮川岸の人達が避難を始めたのは夕方だったと思う。ゴウゴウという水の音、石と石の打ち合う音、物凄くて生きた心地がしない。一略一下屋造りの我が家は下が庫になっていた。薄暗い下屋に異様な泥の匂い。その泥水天井までつこうとしていた。一略一早く逃げた方が良く急ぎたてられ引き上げたのだ。逃げた先は高台の寿屋宅、新宮川岸の大勢の人達がそこで夜を明かした。

（「語りつぐ中沢の三六災害」p92 三六災害におもう）

記 録



濁流渦巻く新宮川岸付近（写真左）とそれにより軒まで土砂に埋まった新宮川岸の家々（写真右）

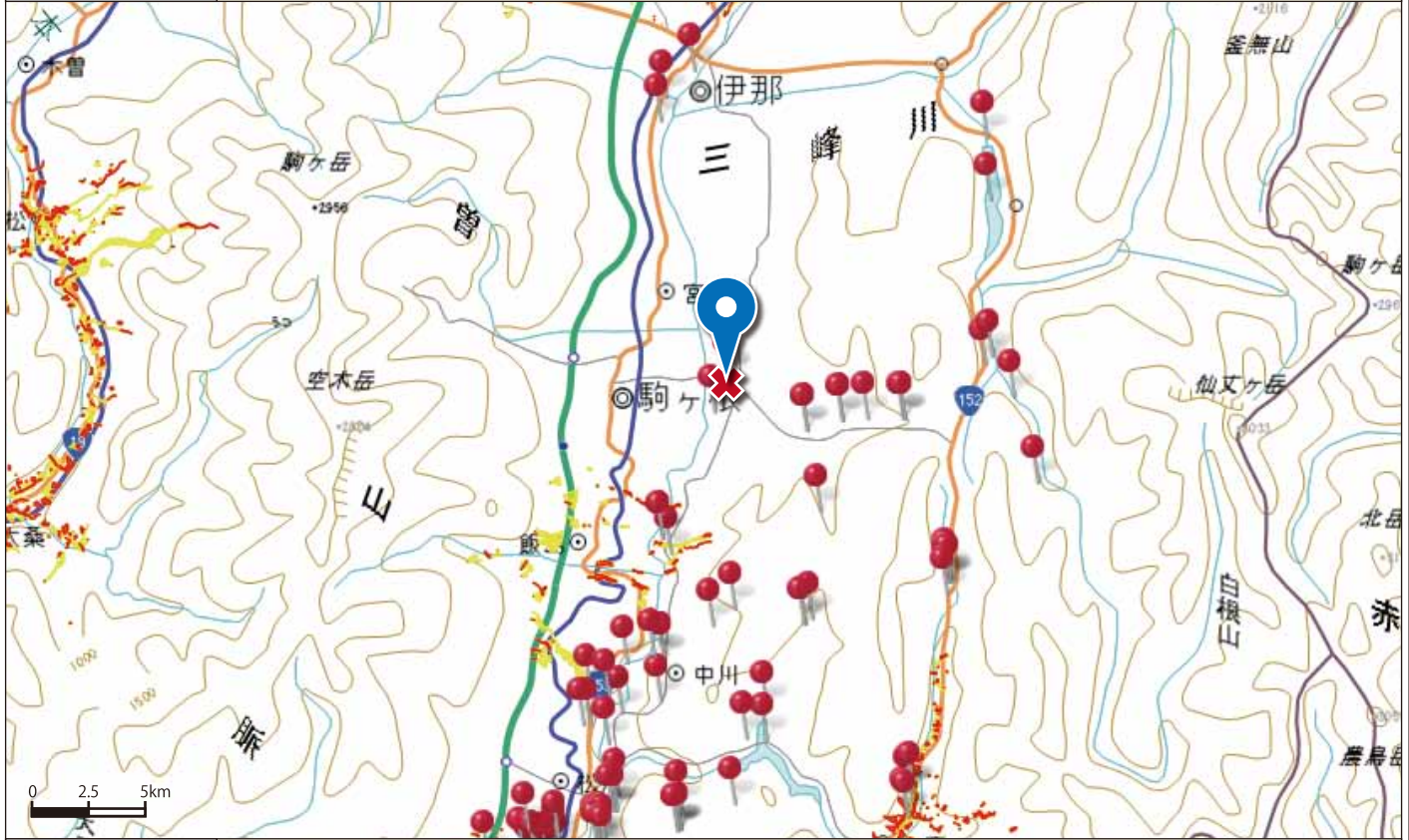
出典 「駒ヶ根市の災害史」p.3、4/ 中沢公民館文集「溪声」第38号p.5/ 「語りつぐ中沢の三六災害」p92 三六災害におもう

備考 概要欄の< >は編者が補足説明したものです。

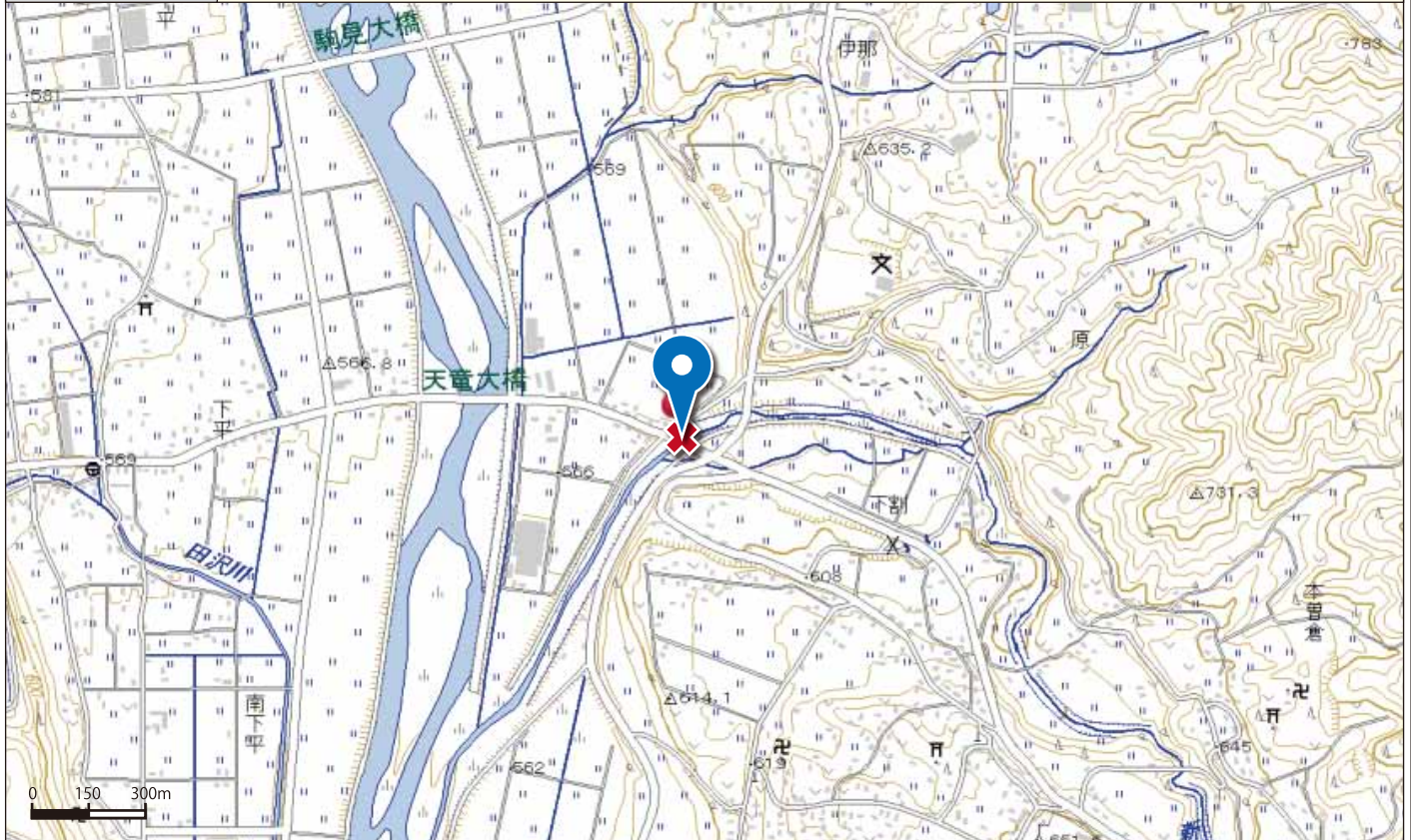
No.	10-2-9	場所	駒ヶ根市 新宮川岸	緯度	35.734521
-----	--------	----	-----------	----	-----------

名称	①濁流渦巻く新宮川岸付近 ②軒まで土砂に埋まった新宮川岸の家々	経度	137.974859
----	------------------------------------	----	------------

地図 広域図



地図 詳細図



備考 上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通用：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。